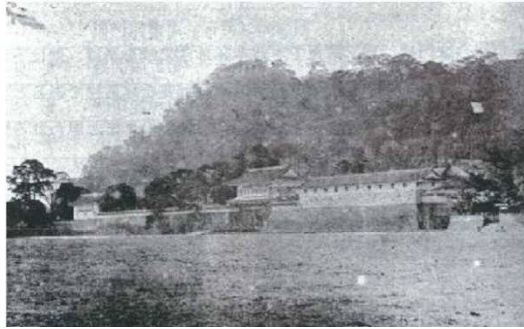


ごろうもん 鶴丸城御楼門の建設

御楼門とは

■鶴丸城は、慶長6年(1601年)頃に島津家第18代当主(初代藩主)家久が建設に着手した島津氏の居城で、本丸・二の丸、下屋敷が並び、本丸の入口に楼門があったが、明治6年(1873年)の火災で居館とともに焼失



取組の状況

平成25年4月～ 御楼門復元検討委員会による「復元に向けた方向性の提言」

鹿児島経済同友会を中心とする「御楼門復元検討委員会」から、経済界や個人による募金などを大きな財源とする民間主導による復元計画を盛り込んだ提言がなされ、その後発足した「鶴丸城御楼門復元実行委員会」が、平成25年12月以降、企業や個人に対して寄附金募集を開始

平成26年3月 県による鶴丸城楼門復元協力寄附金基金を設置

県は、鶴丸城の楼門を復元するために寄附された鶴丸城楼門復元協力寄附金を適正に管理これを活用し、楼門の復元に必要な経費の財源に充てることを目的とした「鶴丸城楼門復元協力寄附金基金」を設置

平成26年7月 募金額が目標金額達成

寄附金額が、目標の4億5千万円を達成
御楼門復元実行委員会では、引き続き募金活動を実施

現在の募金額 5.4億円
(平成29年12月末)
法人: 4億9.3千万円
個人: 4.8千万円

<御楼門建設の意義>

- 民間が主導する新たな官民連携のモデルの一つ
- 歴史、文化、建築技術の継承などのほか、新たな観光拠点として
- 楼門は、文化施設等が集積する「かごしま文化ゾーン」の充実や、回遊性の向上等に寄与すると期待されており、鹿児島らしい新しいシンボルとなり得る

民間が主導する新たな官民連携の事業として

平成27年2月
鶴丸城御楼門建設協議会 設立

鶴丸城御楼門建設協議会

目的：鶴丸城の御楼門を建設することを目的とし、関係法令の諸手続及び建設に必要な事業を行う。(平成27年2月18日 設立)

構成：県、鶴丸城御楼門復元実行委員会

- 会 長 鹿児島県知事 三反園 訓
- 副会長 鶴丸城御楼門復元実行委員会 委員長 玉川文生
(鹿児島経済同友会 特別幹事)
- 委 員 <実行委員会>
 - 鹿児島商工会議所 副会頭 湊本 逸雄
 - 鹿児島経済同友会 特別幹事 永田 文治
 - 県中小企業団体中央会 副会長 下園 廣一
 - 鹿児島経済同友会 常任幹事 藤安 秀一
- <県>
県民生活局長, 教育庁教育次長, 土木部建築技監,
会計管理者(兼)出納局長

※オブザーバー 鹿児島市

歴史, 建築, 考古学等の各分野の専門家による「専門家委員会」の設置



基本設計イメージ図(県建築士会作成)

2020年3月
完成を目指す!

取組状況

- 史跡の現状変更許可の前提となる保存管理計画・保存活用計画の策定(H27)
- 建設に必要な大径木の調査や調達(H27~)
- 県指定文化財の現状変更許可の手続(H27~H28)
- 基本設計・実施設計(H27~H28)
- 建設工事(H29~)

御角櫓

- 楼門と連なり城郭を構成する重要な要素である御角櫓を, 県において建設
- 楼門と併せて一体的に整備
- 樹木の移設工事, 埋蔵文化財発掘調査(H27~)
- 基本設計, 実施設計, 建設工事(基本設計 H28~)